



▲ 里見駅の改札口

kei kan ma chi du ku ri tsu shin 景観まちづくり通信

いすみの文化 さがしはじめ

景観まちづくり委員会で、計画する見学会をどこの場所にするか悩んでいた。

候補地のうち千葉県のいわゆる波乗りブロックにするか、はたまた白樺文学の舞台となった我孫子にするか決めかねた。实际的に自分たちがあまり直接的な生活感やテーマの切り口を今すぐは持てないという理由でいすみは今回先延ばしすることにした。果たして、10月4日になって新聞でいすみ鉄道が脱線して運休したことがわかった。

実際を知ろうと、五井駅から小湊鉄道に追って確かめてみることにした。上総中野まで行って運行バスにのった。その前の月に景観まちづくり委員の方々との今井兼次氏設計の大多喜町役場・千葉学氏設計の新・旧庁舎の下見分してきたのだが。



● 里見駅



景観まちづくり委員会
出堀 義夫

千葉でも鉄道事業は苦しんでいる。久留里線では100円を稼ぐのに1万3580円かかり、1日平均利用客は50人程度という。経済的には採算が合わないことが、廃線の理由にされる。インフラの喪失は大多喜までの山間に住む人にとっては重大なことだ。昨今注目されている宇都宮のLRT路面電車が走る中心市街地とは異なる、山間の山奥を通る鉄道の経営上の悩みを想像する。